

特集展示

墨堤の桜

令和8年2月28日(土)～5月6日(祝・水)



明治35年二月十日印刷 全年月日発行 臨巴印刷 兼發行 東京市墨堤区向島五丁目十五番地 勝木吉

楊洲周延画「東京名所 墨堤之桜」明治35年(1902)

会場：3階展示室
 休館日：月曜日・第4火曜日(土・日・祝日は開館。祝日に当たる時は翌平日休館)
 時間：午前9時～午後5時 *入館は午後4時半まで
 入館料：個人100円/団体(20名以上) 1人80円

※中学生以下と身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及び介助の方は無料

すみだ郷土文化資料館

墨田区向島2-3-5

TEL 03(5619)7034 / FAX 03(3625)3431

すみだ
郷土文化資料館
ホームページ



特集
展示

墨堤の桜

隅田堤の桜は、享保10年（1725）に木母寺境内と隣の御前栽畑に江戸城御庭の桜樹が移されたことが始まりで、徐々に南に延びていき、明治初期には旧水戸藩邸側の現枕橋に到達します。

しかし、明治時代になると、変化が見られます。まず、江戸時代は隅田堤と呼ばれることが一般的でしたが、明治時代以降は墨堤と呼ばれることのほうが多くなってきました。また、著名な明治20年（1887）建碑の「墨堤植桜の碑」は、江戸幕府からの桜樹維持費が維新後なくなり、樹勢が衰えてきたことへの対応の結果、建てられたものでした。

さらに大きな変化は、向島地域（墨田区の北部）を取り巻く環境の変化です。隅田川神社の神主矢掛弓雄は『隅田川叢誌』（明治25年）で次のように述べています。「明治時代の始めに情景豊かな隅田川八景を選んだ時から、大堤（墨堤）の内外の景観は少しずつ変わってしまった。鐘ヶ淵紡績工場が出来て、器械の音は昼夜絶え間なく、夜の雨の音が聞こえていたのが昔の夢のようだ。人家が出来て田も減ってしまい、水神の森付近に残るだけである。秋の落雁の声も聞こえなくなってしまった」と。向島の寺社仏閣と周辺に広がる田畑の借景は、近代化によって大きく変化しつつあったのです。

今回の特集展示では、墨堤の桜の明治大正時代を、桜樹を守る人々と景観に着目しながら、館蔵の浮世絵・石版画・写真資料で紹介していきます。



井上安治画「向島桜」



延一画「東京名所内向島桜観の図」



すみだ郷土文化資料館

〒131-0033 東京都墨田区向島 2-3-5

TEL 03(5619)7034 / FAX 03(3625)3431

- 都営浅草線「本所吾妻橋」駅下車、徒歩8分
- 東武線「とうきょうスカイツリー」駅下車、徒歩7分
- 都営バス「言問橋」停留所下車、徒歩2分
(草39：金町駅～浅草寿町
業10：新橋～とうきょうスカイツリー駅
上26：亀戸駅～上野公園)
- 都営バス「本所吾妻橋」停留所下車、徒歩8分
(都08：錦糸町駅～日暮里駅
門33：豊海水産埠頭～亀戸駅
上23：平井駅～上野松坂屋)